

(一) 「出典」篠原雅武『空間のために』。問題文途中に文や語句の省略がある。

〔解答〕

問一 ニ 問二 ハ 問三 新しい生活していく能力 問四 ニ
問五 1 ロ 2 ロ 3 ニ 問六 平坦 問七 イ・ニ

(二) 「出典」戸田ツトム『陰影論』。問題文途中に語句の省略がある。

〔解答〕

問八 I イ II ハ III ハ 問九 イ(ニ↓ロ↓イ↓ハ)
問十二 問十一 ニ 問十二 ニ 問十三 ロ
問十四 イ・ロ 問十五 A 喚起 B 媒介 C 交錯

(三) 「出典」『夜の寢覚』巻三

〔解答〕

問十六 ハ 問十七 A ニ B ハ
問十八 B ロ C ホ E ニ F イ 問十九 ロ 問二十 ニ
問二十一 イ・ハ・ホ

(四) 「出典」『風俗通義』問題文途中に文の省略がある。

問二十二 イ 問二十三 然 不_レ敢 不_レ飲

問二十四 ハ 問二十五 ハ

〔講評〕

(一)(二)が現代文の評論、(三)が古文、(四)が漢文という形式は昨年度と同じ。

(一)は、繰り返し述べられている作者の主張が掴めるかどうかが鍵。それが、問二、問三、問四、問七の解法にも関わってくる。

(二)は、昨年度の硬質な評論に変わり、エッセイ的な評論となった。その分、文章自体は取つきやすくなったが、具体例や比喩的表現が多いため、文章全体の論旨の把握が難しい。設問としても、主旨に関わる問十四がやや難しいか。

(三)は、問二十で設問にもなっているように、「寢覚の上」「故大臣」と「源氏の大臣」との関係がつかめるかがポイント。

(四)は、二つのエピソードからなる文章。後半部分は、「2002年度東大理科第3問」でも出題されている(ただし、東大では最後の部分が省略されている)。文章の内容、設問ともにそれほど難しくないだろう。

2014 年度 早稲田大学 文学部 英語解答例

I (A) 1-(a) 2-(d) 3-(b) 4-(d) 5-(b) 6-(b) 7-(a)
(B) 8-(b) 9-(b) 10-(b) 11-(b) 12-(a) 13-(d) 14-(c)

II (A) 15-(c) 16-(a)
(B) 17-(d) 18-(a) 19-(c)
(C) 20-(c) 21-(c) 22-(c) 23-(d) 24-(c)

III 25-f 26-h 27-g 28-c 29-d 30-e 31-a

IV 32-a 33-k 34-g 35-m 36-d 37-c 38-i

V (解答例)

We are rushing into the time of electronic books reading which has an advantage of being cheap, and easy to store, though there may be many people preferring real paper books, for whom various devices are developed, such as turnable pages, front covers, book covers and virtual bookcases.

※コメント

出題形式は例年通り。また、語彙、語法、イディオムの難度は高水準のまま維持されている。空所補充では、比喩表現に気づいた上で選択肢から語を選択する能力も必要となっている。大問Ⅱ(B)の難度が高い。